NEW
8月16日、ツイッターで発信された「別冊漫画ゴラクです。これから印刷所に行くのですが、まだちょっと待ち時間があるので、編集者の切ない話を」で始まるエピソードが、ネットで話題になった。どれも、リアリティのある話で、胸がキュンとなる。以下、採録しておきたい。

『お金がなく、漫画家さんと缶コーヒーを片手に、公園で打ち合わせをした事がある』

『原稿をいただきにあがったら、ページ数がなぜか２枚多く、その場で急性胃潰瘍？になり、漫画家さんの仕事場で倒れた』

『女性の漫画家さんの親御さんに御挨拶した時に「あなた、バツイチなんですって？」と、何かわからないが、根も葉もない情報がインプットされていた』。

初めて会う人に、なぜか年収を聞かれることが多い』

『日本文芸社を大手だと思っている人が案外多く、経費使い放題だとたまに思われる』

『漫画関係者ではない人と話をすると、たいがい「ワンピース」の話になるので、なんか悔しいから話を合わせるために全部読んでいる。チョッパー大好き！』

『新人漫画家さんに「編集はさぁ～」みたいな言い方をされたから「僕らは編集ではなくて編集者！漫画家さんのことを漫画とは呼ばないでしょ！」と軽くお説教をしたら２chで悪口を書かれた』

『よく、ライブとかモロモロのチケットを何とかコネで手に入らない？と相談を受けるが、そんなコネあるわけがない！』

漫画編集者歴20年近いが、親はいまでも僕のことを漫画家だと思っているようだ』。

『その昔、アルバイト募集の広告を作った時、あまりにも忙しいから「72時間不眠不休で働ける人募集！」というキャッチを付けたら応募が０だった。上司にも怒られた』

『ギリギリの原稿なので、ベタくらいは塗ろうと漫画家さんちにお手伝いに行ったら、まさに漫画のように原稿にインクをこぼしてこっぴどく怒られた』。

『「漫画の編集者？そういうチャラチャラしてるヤツ、大嫌いなんだよ！」と、いうようなセリフを、過去に３回も吐かれている。全然チャラチャラしていない』

『集英社、小学館、講談社があって、で、日本文芸社って何番目くらい？って聞き方をする人が結構いる』